

2013年9月期 第2四半期決算補足資料

2013年5月14日

【免責事項】

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。

2013年9月期上半期経営TOPIX

I. 連結決算業績

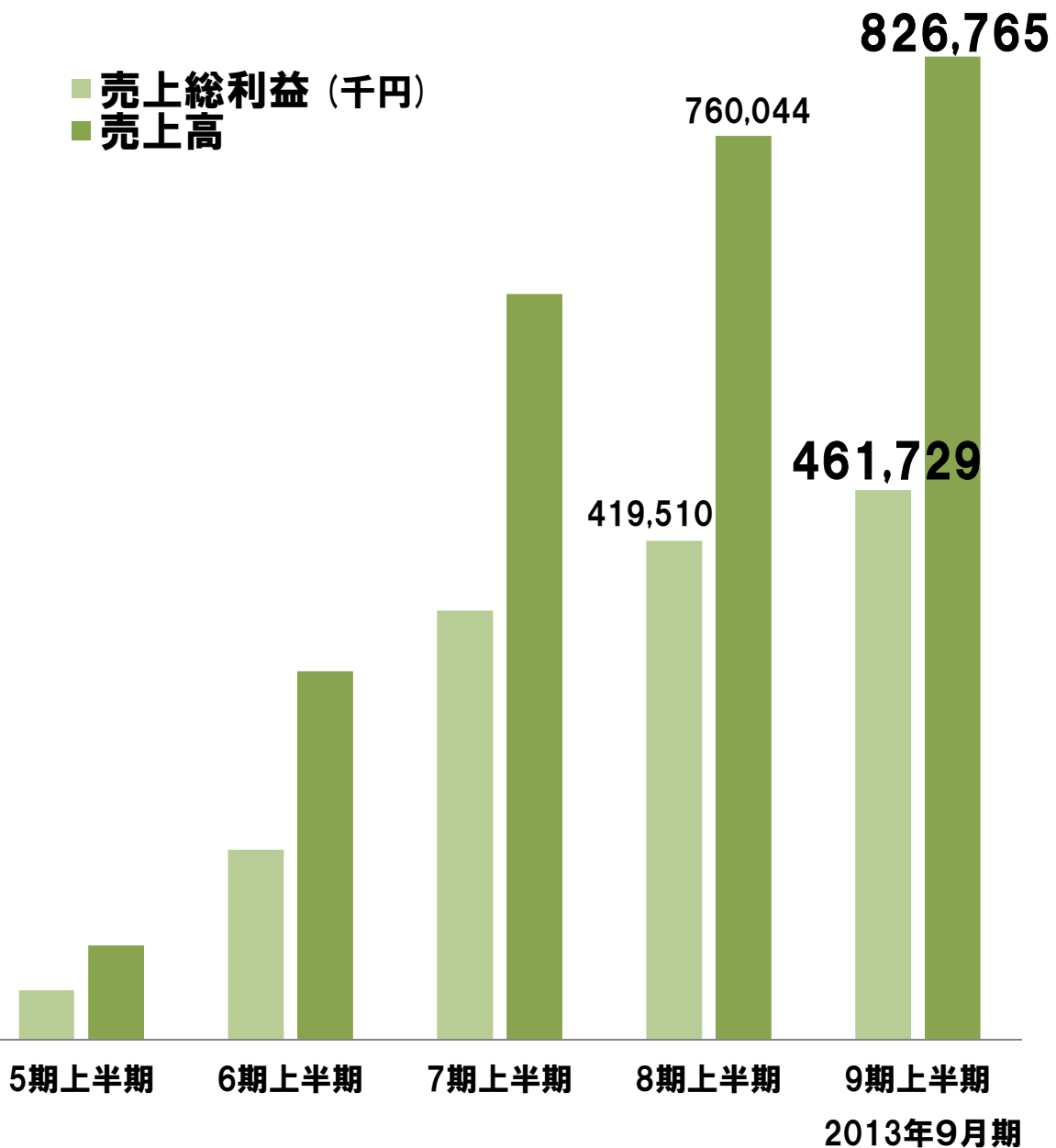
II. 八重山殖産株式会社 完全子会社化

III. 研究開発進捗

連結決算業績

業績推移—売上高、売上総利益

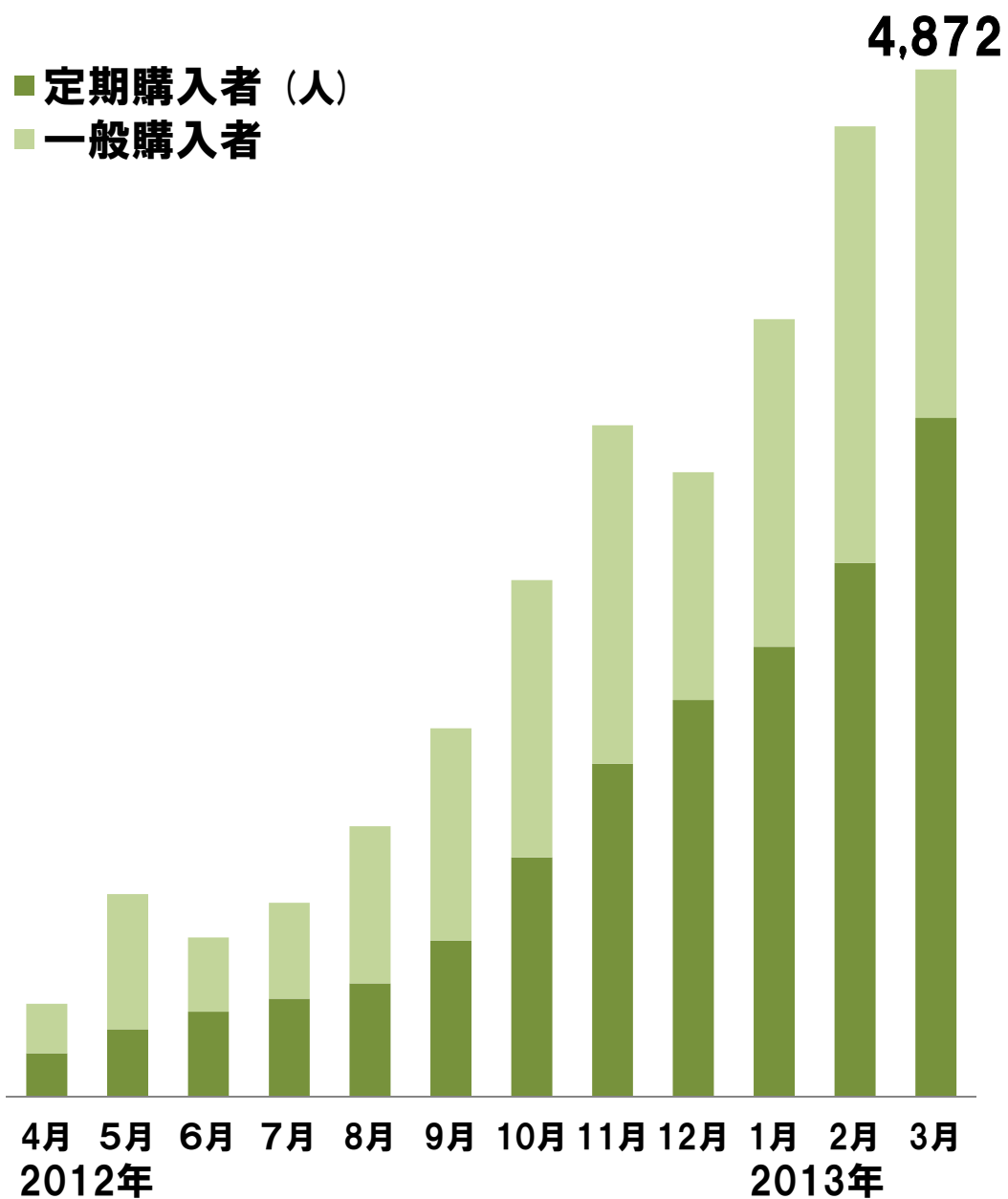
■ 売上総利益 (千円)
■ 売上高



9期連続増収 過去最高



ユーグレナ・ファーム(ECサイト)顧客推移

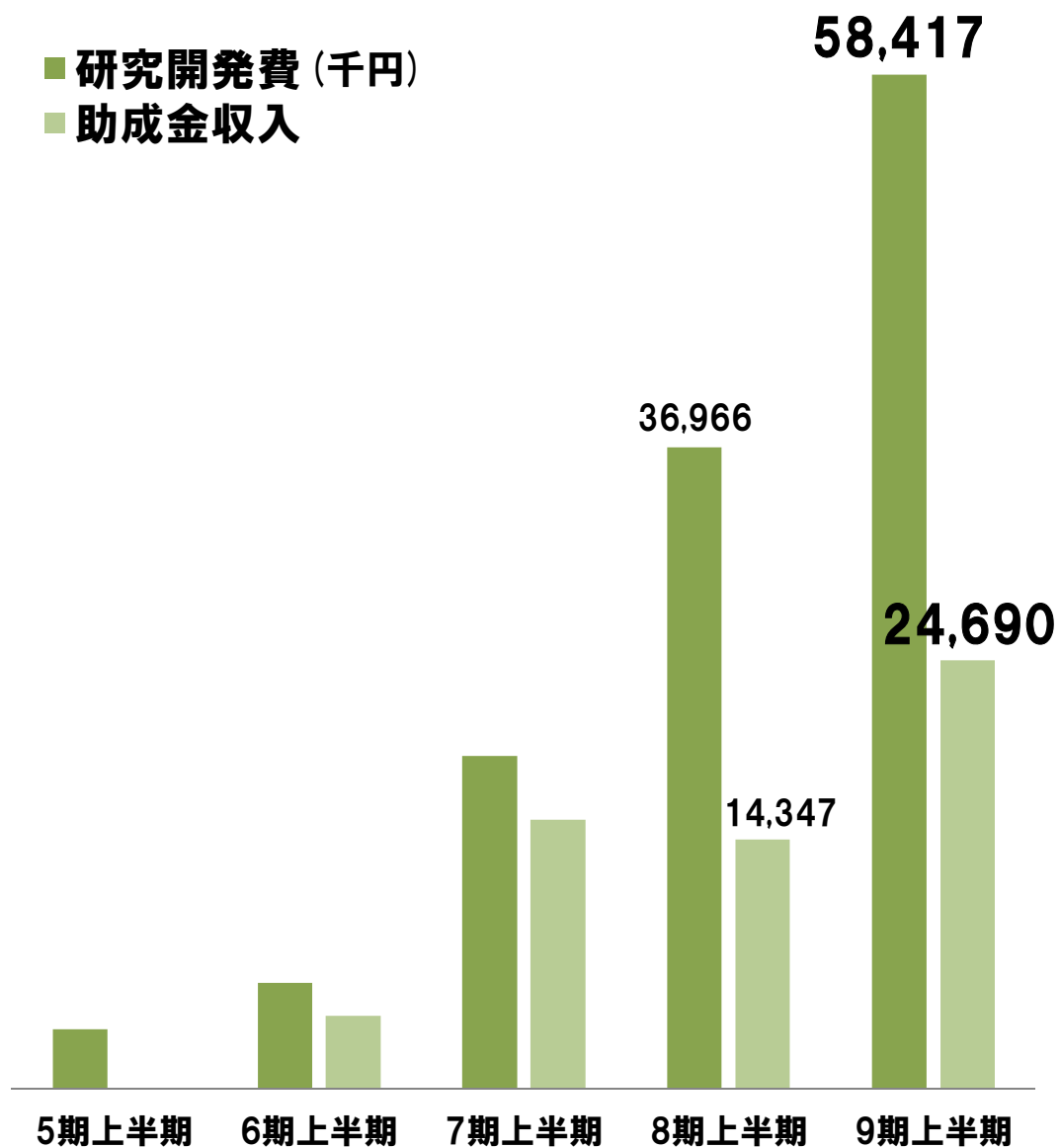


ECサイト急成長 11倍！



業績推移—研究開発費関連

■ 研究開発費 (千円)
■ 助成金収入

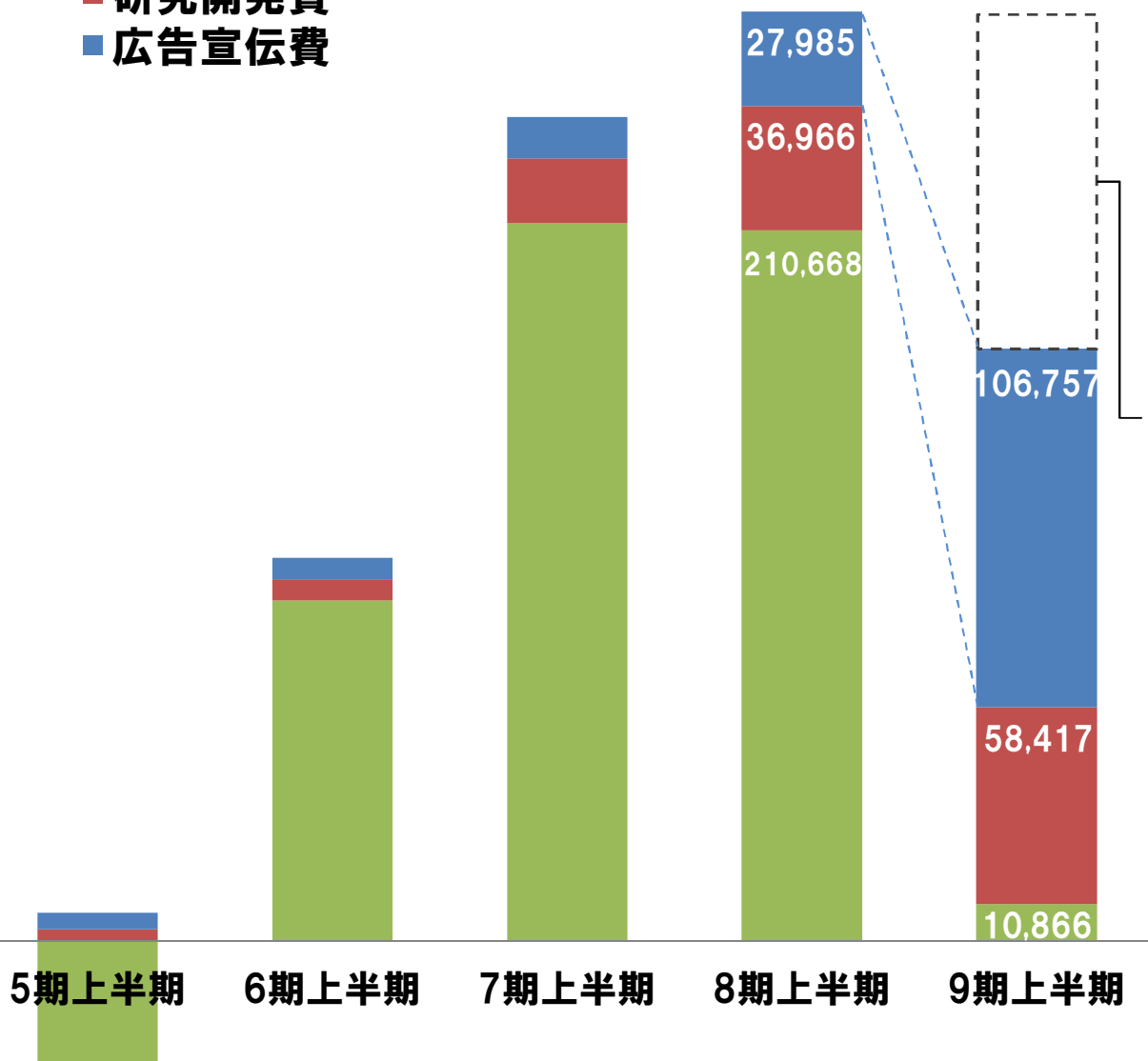


研究開発費 政府助成金の増加



業績推移—経常利益

- 経常利益 (千円)
- 研究開発費
- 広告宣伝費



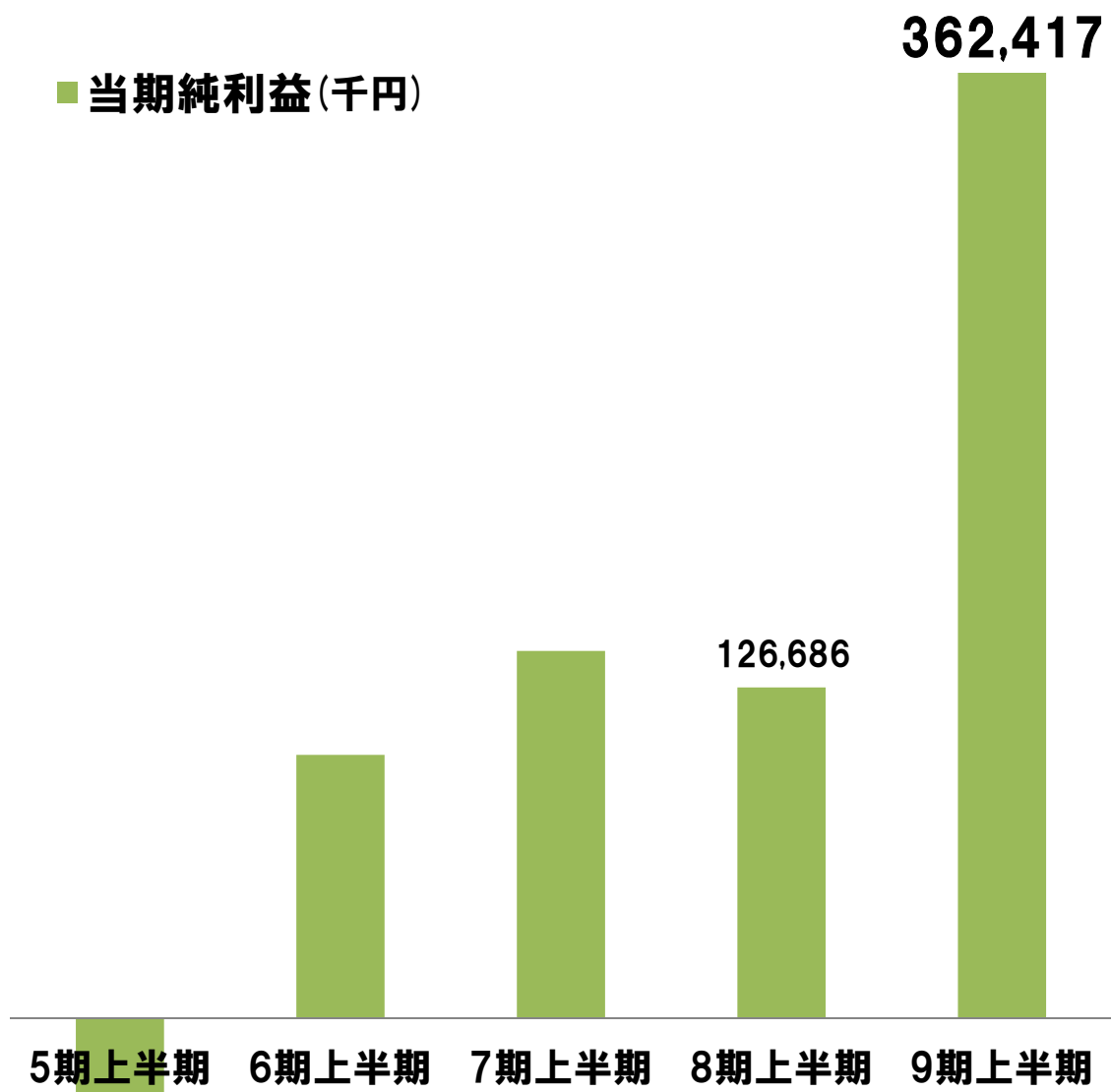
広告宣伝への 先行投資

主に上場申請、維持関連管理費用

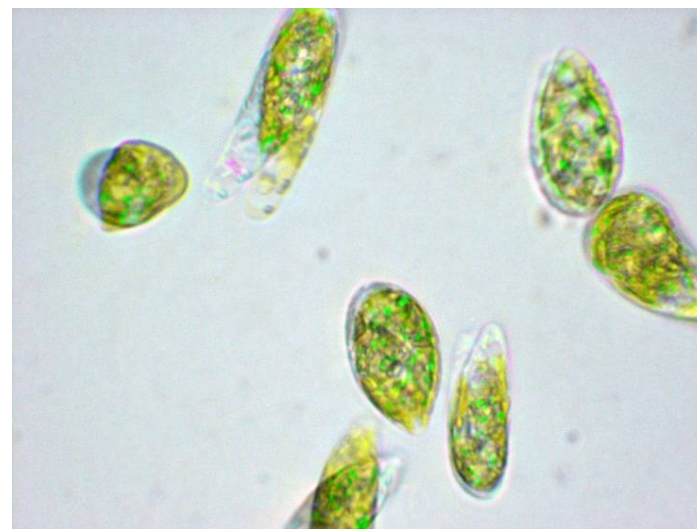


業績推移—純利益

■ 当期純利益(千円)



過去最高益



通期連結決算業績予想発表

| | 平成24年9月期 実績値 | 平成25年9月期 今回発表連結値 | 前期比 |
|--------------|-----------------|---------------------|--------|
| 売上高 | 1,585百万円 | 2,055百万円 | 129.7% |
| 経常利益 | 325百万円 | 225百万円 | 69.2% |
| 当期純利益 | 197百万円 | <u>445百万円</u> | 225.9% |
| 一株当たり 純利益 | 18.32円 | 34.22円 | 186.8% |

2013年5月14日に単体決算予想の修正と連結決算予想を発表

**八重山殖産株式会社
完全子会社化**

会社概要および株式取得の概要

| | |
|------|------------------|
| 代表者 | 代表取締役 志喜屋 安正 |
| 本店 | 沖縄県石垣市字白保287番地14 |
| 事業内容 | クロレラ等の藻類の生産、販売 |
| 純資産 | 2億7,169万円 |
| 売上高 | 5億6,111万円 |
| 経常利益 | 1億8,135万円 |
| 当期利益 | 7,481万円 |

(平成25年3月度決算数値)



| | |
|------|------------|
| 取得日 | 平成25年3月27日 |
| 取得価額 | 2億300万円 |
| 持分比率 | 100%子会社 |

完全子会社化による効果

【従前の体制】



事業の 垂直統合

研究開発への効果



- 農学系技術
- 政府助成金




- 工学系技術
- 大型藻類培養槽

生産コストの低減
研究開発設備投資




生産における効果

 ミドリムシ∞カンパニー
euglena

- 設備投資資金
- 情報管理

×


 yaeyama
クロレラ
八重山殖産(株)

- 生産設備

生産設備への投資効率化
技術流出リスクの低下



事業における効果

 ミドリムシ∞カンパニー
euglena

- ・ユーグレナ販売
- ・マーケティング

×

 yaeyama
クロレラ
八重山殖産(株)

- ・クロレラ販売

営業基盤の共有化

(両社顧客へのクロスセリングなど)

委託先への交渉力の強化



研究開発進捗

新研究所「生産技術研究所」の設立

本店・中央研究所
(東京大学内)



飯田橋オフィス



研究の加速

生産技術研究所(八重山殖産敷地内)



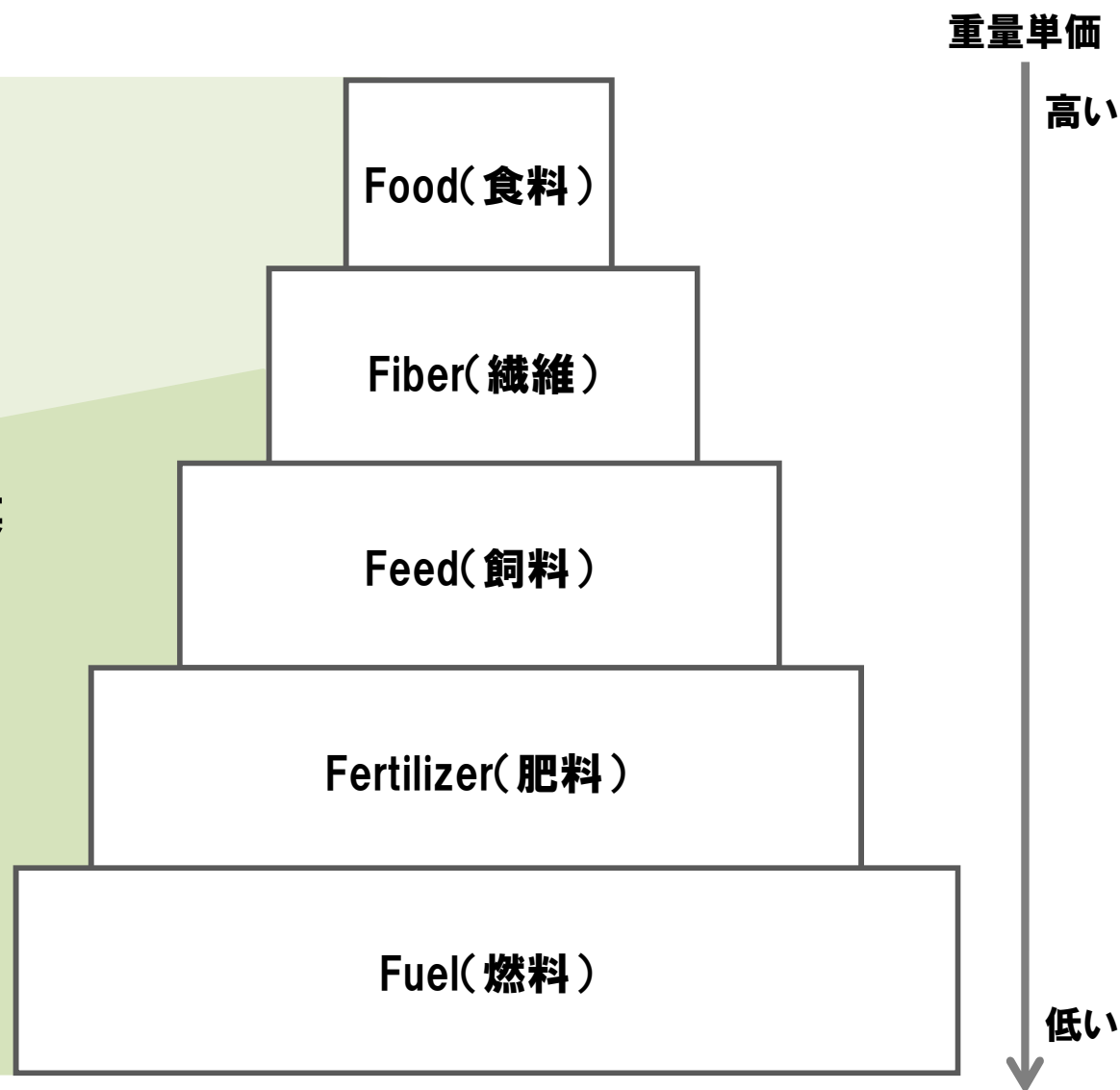
5Fにおける研究進捗報告

Speciality領域 = ヘルスケア事業

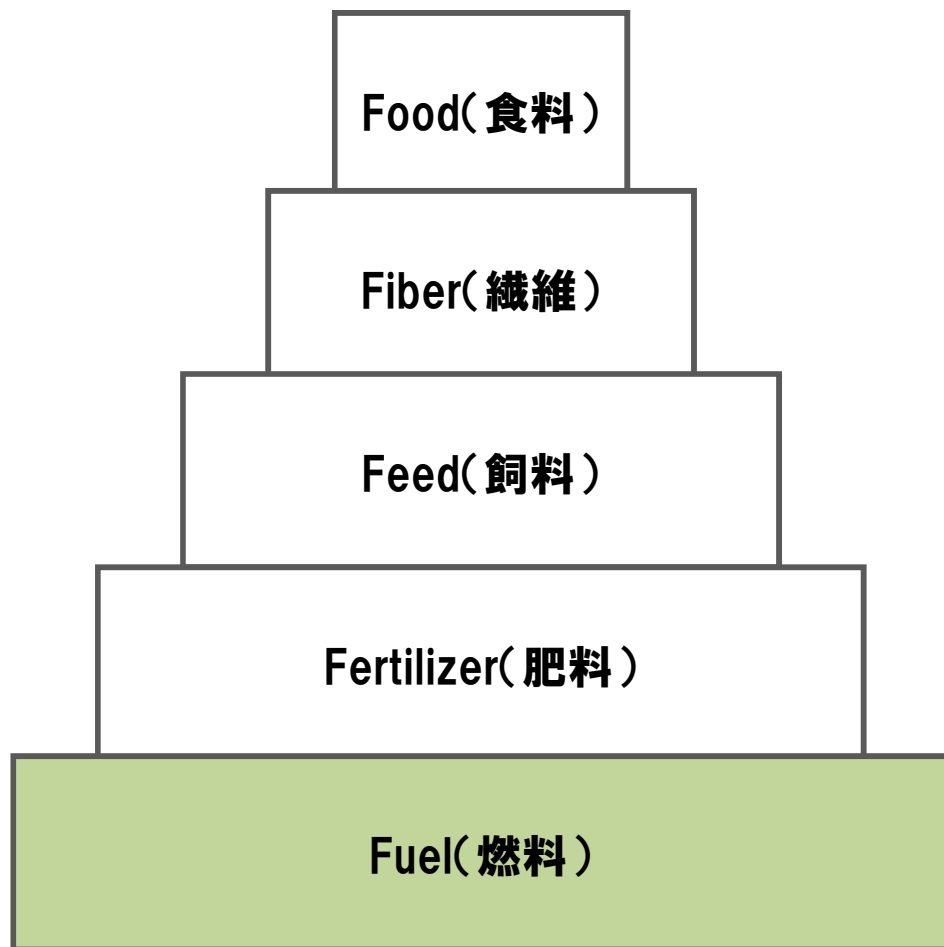
- ・機能性食品
- ・化粧品素材
- ・医療品素材 etc

Commodity領域 = エネルギー・環境事業

- ・化成品
- ・配合飼料素材
- ・肥料素材
- ・工業用油
- ・バイオジェット燃料 etc



5Fにおける研究進捗報告



燃料用培養における初期目標

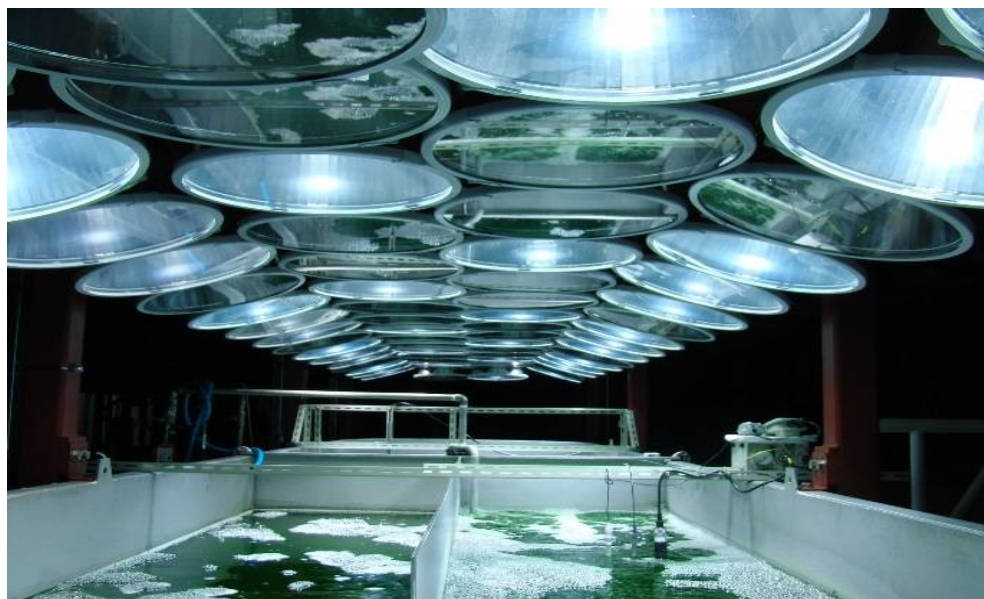
1. ユーグレナの屋内生産性向上

目標増殖速度: **38**g/(m²・d)

2. 油脂含有率の向上

目標油脂含有率: **30**%以上

3. 炭素代謝経路の解析



屋内レースウェイ型培養槽

培養速度

**38g / (m²·d) を達成
@ 屋内大型設備**

1. 小型培養槽

半連続培養により4日平均で
38g / (m²·d) の目標を達成

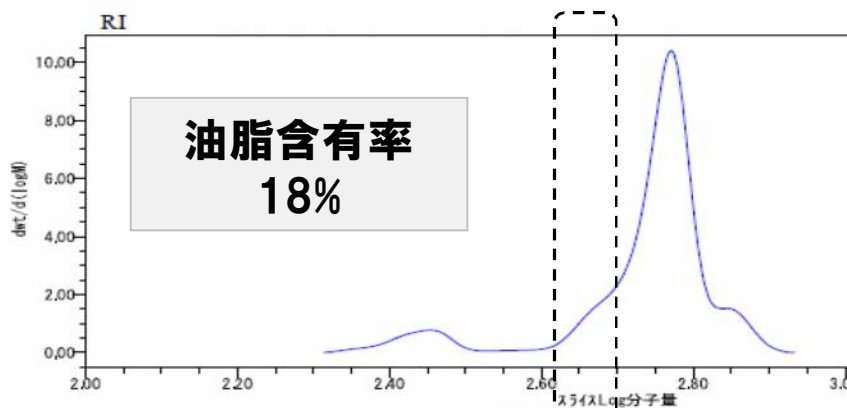
2. 屋内大型培養槽

1日の増殖最大値は目標値を超える
40g / (m²·d) を確認

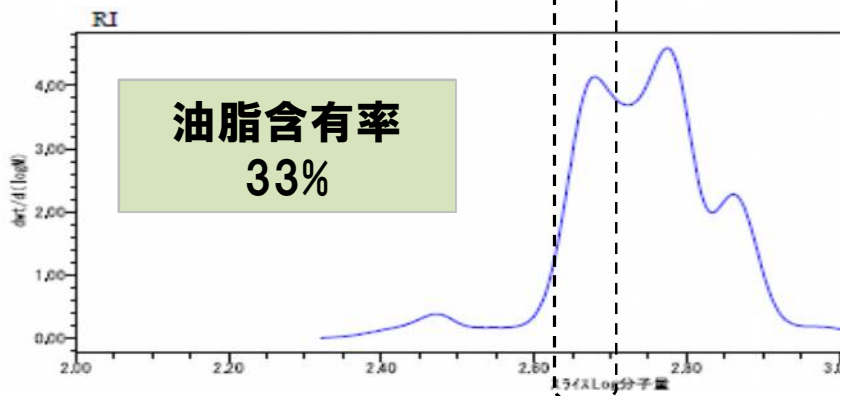
バイオジェット燃料－油脂含有率

窒素欠乏培養を行わなかった場合

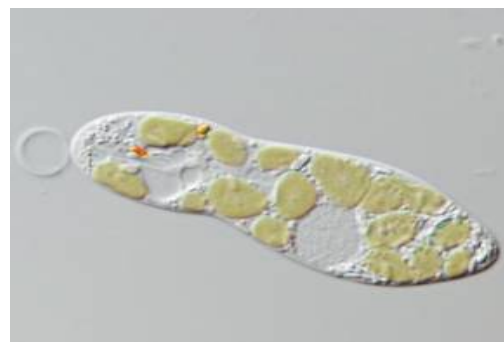
ワックスエステルピーク



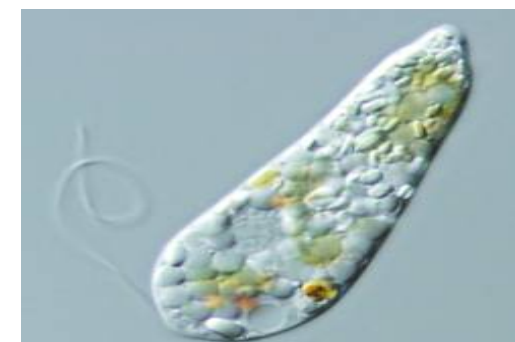
窒素欠乏培養を行った場合



油脂含有率 30%を達成

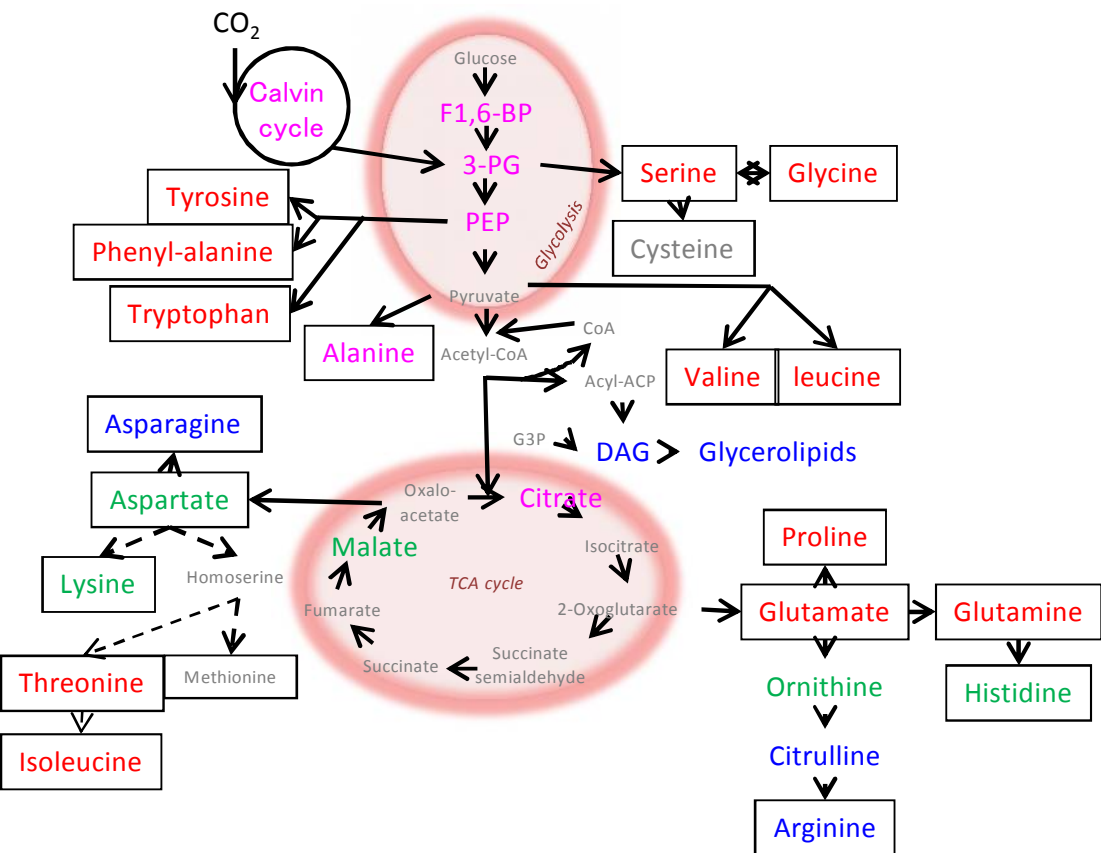


通常培養



窒素欠乏培養

バイオジェット燃料－油脂含有率



(目的)
 増殖速度および油脂含有量の
 飛躍的向上をもたらす因子探索



炭素代謝経路
 の解析を完了

光独立栄養時の主要な代謝物質マップ

バイオジェット燃料ー課題と今後

1. ユーグレナの生産性向上

- ・屋外での新たな生産性の目標の達成



屋外大型培養槽@千葉県松戸市



屋外大型培養槽@沖縄県石垣市

2. ユーグレナの油脂含有率向上

- ・油脂化条件の最適化
- ・代謝物質量を指標とした培養条件診断技術の開発

バイオジェット燃料ー課題と今後

3. 燃料分野の各プロジェクトの連携による目標の達成

○経済産業省：NEDO「戦略的次世代バイオマスエネルギー利用技術開発事業」

テーマ：微細藻由来のバイオジェット燃料製造に関する要素技術の研究開発

パートナー：JX日鉱日石エネルギー株式会社、株式会社日立製作所、慶應義塾大学

テーマ：遺伝子改良型海産珪藻による有用バイオ燃料生産技術開発

パートナー：高知大学、京都大学、東京大学

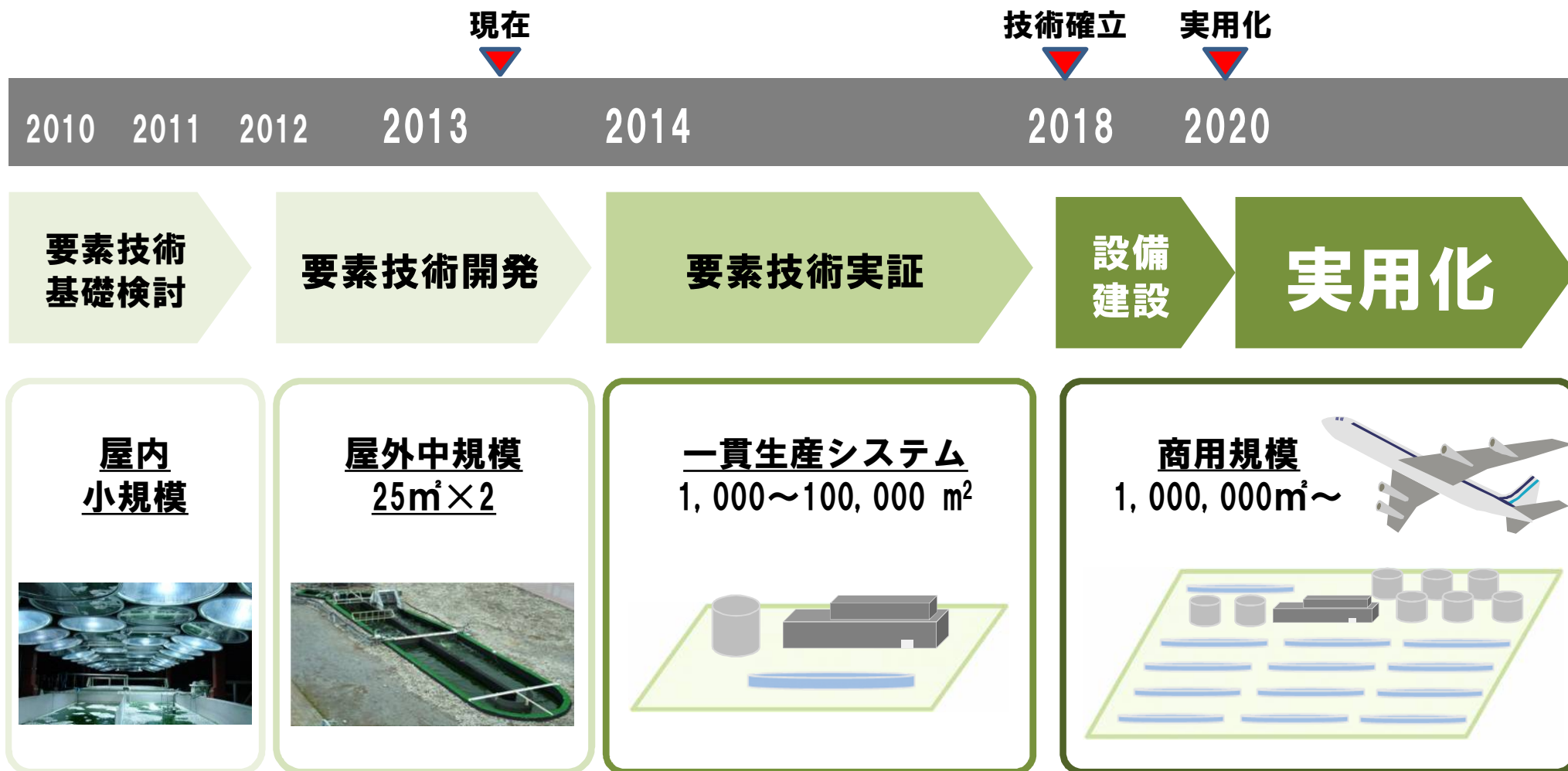
○文部科学省：JST「戦略的創造研究推進事業」

テーマ：形質転換ユーグレナによるバイオ燃料生産基盤技術の開発

パートナー：島根大学(研究代表)、近畿大学

バイオジェット燃料ースケジュール

NEDO、JST等の各プロジェクト連携によるバイオ燃料開発目標スケジュール



バイオジェット燃料ー政府の次世代エネルギー政策の重点分野へ

総合科学技術会議（議長・安倍晋三首相）にて、
次世代エネルギー政策の重点分野に「藻の活用」
などを選定、来年度以降の予算分配に反映する見込み。

3. エネルギー分野における重要プロジェクト

これらのポイントを踏まえ、エネルギー分野においては具体的に以下のようなプロジェクトを、産学官連携及び府省連携の下で、特に強力に推進すべき。

（中略）

（5）微細藻類を利用した燃料開発

- ・国際航空運送協会（IATA）は、2050年までに2005年比△50%のCO₂排出削減達成を目標
- ・火力発電所等からの燃焼排ガス・排熱を利用して培養した微細藻類からバイオ燃料を生産
- ・持続可能な輸送用燃料として温室効果ガス排出量削減に寄与でき、エネルギー資源の多様化や自主開発エネルギー源の獲得に貢献
⇒大量・高生産性培養技術、抽出残渣の有効活用。燃料生産に適した株の獲得・改良

（平成25年3月28日 総合科学技術会議（第108回）議事次第より引用）

その他報告事項

その他報告事項

●キャピタル・アイAwards「BEST DEALS OF 2012」に選出

キャピタル・アイAwards「BEST DEALS OF 2012」の新規公開株式公募・売出部門に当社が選出されました。
選出理由:

「世界初のミドリムシ屋外大量培養技術を確立した東京大学発のバイオテクノロジー企業。ベンチャーらしい独創的な事業内容と黒字経営という安定性を併せ持ち、ブックビルディングでは個人、機関投資家ともに幅広い需要を集めた。株価は3月末時点で公開価格の約10倍に達し、当年度のIPOで上昇率トップとなっている。」
(キャピタル・アイ社リリースより抜粋)

● BangladeshにおけるODA案件化調査の実施

外務省の平成24年度政府開発援助海外経済協力事業(ODAを活用した中小企業等の海外展開支援のための委託事業による調査業務)の案件化調査(医療保険分野)として、Bangladesh人民共和国での「ユングレナを用いた母子保健事業案件化調査」が採択を受けました。



バイオテクノロジーで昨日の不可能を今日可能にする。

